

# 第 6 回地域 SNS 全国フォーラム in 千葉 実施報告書

2010 年 3 月

第 6 回地域 SNS 全国フォーラム in 千葉 実行委員会

## 目次

|                                                       |    |
|-------------------------------------------------------|----|
| 1. シンポジウム概要 .....                                     | 3  |
| 2. 開会式 .....                                          | 8  |
| 3. 講演 1：まちのこんにちはを目指してーあみっぴい誕生まで .....                 | 9  |
| 4. 講演 2：地域 SNS の現状と発展の方向性 .....                       | 11 |
| 5. 1-1：地域通貨と地域 SNS から広がった新たなつながりー西千葉の事例から .....       | 13 |
| 6. 1-2：地域 SNS 研究の最前線.....                             | 15 |
| 7. 2-1：地域 SNS の事業継承を考えるー横浜市から民間への引継ぎ事例から.....         | 16 |
| 8. 2-2：地域における新しいツールとビジネスの関係ーTwitter、動画中継などをどう使うか..... | 18 |
| 9. メインセッション：地域を元気にする ICT の使い方 .....                   | 19 |
| 10. 閉会式 .....                                         | 21 |
| 11. パネル・ポスター展示： .....                                 | 22 |

## 1. シンポジウム概要

会場： 千葉大学けやき会館

千葉市稲毛区弥生 1-33 千葉大学西千葉キャンパス構内

主催： 第6回地域 SNS 全国フォーラム in 千葉実行委員会

共催： 財団法人 NEC C&C 財団

後援： 総務省 千葉市 千葉大学

協力： 有限会社アミーゴジャパン

健康空間ひらやま整体院

ぎやまん亭

八街落花生組合フクヤ商店

壁の穴

キッチン円

ムーンライトブックストア

タイ料理ラビアン・タイ

ピーナツクラブ西千葉

BILLIE 'S BAR

NPO 法人 TRYWARP

居酒屋「あっぱれ」

甘味処 楓

株式会社トライワープソリューションズ

合同会社むすび家

陽菜（ひな）

株式会社かっぺ

Café Mosh

株式会社こころざし音楽工房

Bar&Grill じゃむ

mihorin 企画

八街市推奨の店 ぼっち

さろん花園

日蓮宗 経王山 本昌寺

woodhouse-café

株式会社桃太郎不動産

RYOMA online

呼吸

千葉大学公認サークル CUPO

NPO 法人 子ども劇場千葉県センター

北京亭

株式会社プロシードジャパン

株式会社まちづくり商会

NPO 法人千葉まちづくりサポートセンター

JIRO&アトリエ 5

公式サイト・コミュニティ・ネット中継：

第6回地域 SNS 全国フォーラム in 千葉 公式サイト（動画中継）

<http://forum.local-socio.net/>

公式コミュニティ（地域 SNS 「あみっぴい」 内）

[http://amippy.jp/?m=pc&a=page\\_c\\_home&target\\_c\\_commu\\_id=1411](http://amippy.jp/?m=pc&a=page_c_home&target_c_commu_id=1411)

Twitter

公式アカウント：@snschiba

公式ハッシュタグ：#snschiba

開催趣旨：

ICT を活用し地域社会の「人のつながり」を作り強化することで地域社会の活性化を目指す「地域 SNS」の取り組みは、熊本県八代市での誕生から 5 年が過ぎ、全国約 400 ヶ所にまで増加しています。地域 SNS 全国フォーラムは、地域 SNS の運営や参加、研究などに関心をもつ人々が全国から集まり、情報交換や交流をするイベントとして、平成 19 年 8 月から年 2 回のペースで開催してきました。

今回のフォーラムは、地域 SNS の誕生から 5 年という契機にあたり、またますます地域社会の「人のつながり」の再構築が求められる中での開催となります。ICT が得意とするところではその特性を活かし、不得意なところでは他の手段と組み合わせながら、地域コミュニティの活性化や地域メディアの創出等の目的をいかに実現するか。全国各地からの参加者とともに地域 SNS の有効な活用法や今後の発展の方向などについて議論するとともに、広く世の中に地域 SNS をアピールする機会として、「第 6 回地域 SNS 全国フォーラム in 千葉」を開催します。

テーマは「まちの「こんにちは」を目指して」です。

プログラム：

| 時間                 | 内容・登壇者                                                                                                                                           |
|--------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10:00～10:20<br>開会式 | 歓迎の歌 松尾貴臣氏（㈱ころざし音楽工房 代表取締役）<br>あいさつ 後閑博史氏（財団法人 NEC C&C 財団 専務理事）<br>あいさつ 熊谷俊人氏（千葉市 市長）<br>あいさつ 齋藤 康氏（千葉大学 学長）                                     |
| 10:20～11:20<br>講演  | まちの「こんにちは」を目指して -あみっぴい誕生まで<br>虎岩雅明氏（NPO 法人 TRYWARP／あみっぴい）                                                                                        |
| 11:20～11:50<br>講演  | 地域 SNS の現状と発展の方向性<br>庄司昌彦氏（国際大学 GLOCOM ／地域 SNS 研究会）                                                                                              |
| 11:50～13:20        | 昼食休憩                                                                                                                                             |
| 13:20～14:50<br>分科会 | 1-1「地域通貨と地域 SNS から広がった新たなつながり -西千葉の事例から」（けやき会館）<br>松尾圭氏（千葉大学大学院）<br>堂本暁子氏（前千葉県知事）<br>松山美穂子氏（mihorin 企画）<br>岡田泰子氏（NPO 法人子ども劇場千葉県センター）<br>アライヒロユキ氏 |

|                         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                         | <p>虎岩雅明氏</p> <p>※特別講演：「実名登録による人的ネットワークの構築に向けて -千葉大学校友会 SNS「Curio」の取組み-」</p> <p>大塚成男氏（千葉大学）</p> <p>1-2「地域SNS研究の最前線」（203 教室）</p> <p>鳥海不二夫氏（名古屋大学）</p> <p>峰滝和典氏（関西大学）</p> <p>和崎 宏氏（兵庫県立大学／ひよこむ）</p> <p>原田 泉氏（国際社会経済研究所）</p>                                                                                                                                                          |
| 14:50～15:05             | 休憩                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 15:05～16:35<br>分科会      | <p>2-1「地域SNSの事業継承を考える -横浜市から民間への引継ぎ事例から」（けやき会館）</p> <p>杉浦裕樹氏（横浜コミュニティデザインラボ）</p> <p>宮島真希子氏（神奈川新聞）</p> <p>肥田野正輝氏（インフォ・ラウンジ LLC）</p> <p>和崎宏氏（兵庫県立大学／ひよこむ）</p> <p>坪田知己氏（慶應義塾大学大学院教授／前・日経メディアラボ所長）</p> <p>2-2「地域における新しいツールとビジネスの関係－Twitter、動画中継などをどう使うか」（203 教室）</p> <p>手嶋 守氏（手嶋屋 代表取締役）</p> <p>牛島清豪氏（佐賀新聞社 デジタル戦略チーム）</p> <p>細谷拓真氏（秋田県横手市 Yokotter 代表）</p> <p>庄司昌彦氏（国際大学 GLOCOM）</p> |
| 16:35～16:50             | 休憩                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 16:50～17:50<br>メインセッション | <p>「地域を元気にする ICT の使い方」（けやき会館）</p> <p>谷脇康彦氏（総務省 情報通信国際戦略局情報通信政策課長）</p> <p>藤倉潤一郎氏（地域協働推進機構）</p> <p>小路隆行氏（神奈川県厚木市 情報政策課）</p> <p>庄司昌彦氏（国際大学 GLOCOM）</p>                                                                                                                                                                                                                               |
| 17:50～18:00<br>閉会式      | <p>あいさつ 海保真氏（地域通貨ピーナツクラブ西千葉世話役／</p> <p>（有）アミーゴジャパン代表取締役）</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

■関連イベント■

**懇親会&大アピール大会**

日時：2月20日（土）18時30分～20時30分

会場：千葉大学学生食堂



## 山武分科会

日時：2月19日（金）午後13時～17時 会場：千葉県山武市役所

プログラム：

- 13:05 オープニングメッセージ（牧慎太郎さん：中継）
- 13:10～14:40 「しなやかなつながりの創造-人にやさしい地域SNSとは」
- 15:00～16:15 「つながりの覚醒-街を元気にする地域SNSを目指して」
- 16:45～16:50 第6回・第7回地域SNS全国フォーラムPR

藤井洋子 福井県坂井市 福井大学地域経済研究所客員研究員  
岡本早苗 広島県尾道市 おのみっち管理人  
小島妃佐子 千葉県山武市 NPO法人山武IT推進協会理事  
大槻大輔 千葉県山武市副市長  
庄司昌彦 国際大学 GLOCOM 主任研究員  
虎岩雅明 NPO 法人 TRYWARP 代表理事  
宮島真希子 神奈川県横浜市 神奈川新聞社デジタルメディア局  
早瀬公夫 静岡県地域情報化コーディネータ, 掛川市情報政策コーディネータ,  
和崎宏 インフォミーム 兵庫県立大学大学 総務省地域情報化アドバイザー



## 2. 開会式



松尾貴臣氏（㈱こころざし音楽工房 代表取締役）

千葉大学出身で、歌を歌うことを通じて地域社会の活性化に関わっている松尾氏が地元住民を代表してオリジナルソング「歓迎の歌」を熱唱し、歓迎の意を表した。

後閑博史氏（NEC C&C 財団専務理事）

開催関係者に感謝を申し上げる。NEC C&C 財団の活動を紹介し、情報技術による社会生活のあり方、また地域の活性化についての調査研究成果を、財団のホームページで発信していると述べた。

斉藤康氏（千葉大学 学長）

「人間はただ集団を作るというだけではいけない。技術の進歩だけではなく、それを使ったコミュニケーション作りが大切であると思う。ぜひこのフォーラムでは、それを目的に頑張ってもらいたい。地域で仲良く楽しく過ごしていけるように、また今回のフォーラムがその機会となるように祈る次第である」



熊谷俊人氏（千葉市 市長）

「私はあみっぴいのユーザーである。あみっぴいが mixi と違うところは、顔をあわせることを前提としているところではないだろうか。Face to Face における人間関係を豊かにしているところが違う。ICT とは IT に「コミュニケーション」という言葉が入る。このように IT は最終的にコミュニケーションを活性化するためにあると思う。

行政は昔からの繋がりを大切にしていた。しかしそれは変わりつつある。これからは、地縁や血縁などを超えた、趣味などで繋がれる時代になる。こうした新たな関係をどのように公共のものにするか、また公共の位置においてこの関係をどのように扱っていくのかが今後大切になる。そうした中で行政として新しい試みが出来るのではないだろうか。例えば SNS では、市民とのランチミーティングやタウンミー

ティングをすることができる。そうして出来たアイデアを市で採用しても良いと思う。このような交流は mixi ではできない。今後、千葉市としては、情報を専門とする部署を作る予定である」



### 3. 講演1：まちのこんにちをを目指してーあみっぴい誕生まで

虎岩雅明氏（NPO 法人 TRYWARP 代表理事/あみっぴい）

私の活動の原点は、「まちのこんにちを」である。SNS の立ち上げの時には地域の活性化を目指していたのに、アクセス数など SNS の活性化にシフトしてしまうことがある。これはもったいないことだと思う。私は、SNS が地域の活性化に繋がることを考えてきた。今回の講演では「あみっぴいが誕生するまで」を語らせて頂きたい。

私は起業をしようとしていた当初から、地域に貢献することを目指していた。自分自身で会社を作ることが出来るのかもしれないと思ったのは、ビルゲイツのドキュメントを観て、アイデアが他人の生活に影響を与えるという事実に感動したことがきっかけであった。その時に自分で会社を作るという考えに目覚めた。様々な企業家のアドバイスを聴いた後、「自分の選んだ道を正解に変える人生にする」という考えに達し、企業することを決意した。



大学卒業後は、まず社会人として生かしてもらえようになりたいと思い、起業のために今自分が出来ることをお金に変えようと考えていた。そのような中、家電量販店でアルバイトをしていたとき、意外なことに「クリック」の意味が良く分からないという人達が多くいることを知った。その経験を通して、学生が「クリック」を教える収益モデルを考えました。しかしパソコン教室をするのではなく、大学生と年配

が地域で交流することを指向した。そこで大学生を集めるために、千葉大学でビラを 2000 枚配った。その結果、10 人のスタッフを募ることができた。

起業に際して資金面に問題があったのだが、事務所は活動に賛同してくださった地域の方が無料で提供してくれた。この事を通して「地域に恩返しをする」と再び決意をした。恩返しをすると人が集まった。人の集まりが、さらに事業を活性化した。

TRYWARP の事業内容は大学生がパソコンを教えることを通して、若者と地域住民との世代間交流のきっかけを作ることである。またそのコミュニケーションを通して、パソコンのトラブルを解消すると共に、地域の方に「安心」を提供することである。しかし若者には、雑談のようなコミュニケーションの面白さがありながら、卒業後のネットワーク作りや、自分が書いた日記が見られるようなシステムの提供が大切であると感じた。そこからあみっぴいが誕生した。あみっぴいの名前の由来は「アミーゴ+ピーナッツ」である。新聞に載ったことで、各地域からの問い合わせがあり、そこから制作事業も始まった。

私はあみっぴいを、幅広い層のユーザーに使ってもらいたかった。しかし大学生の参加を禁止した。大学生ばかりでは、年配の方がおっくうになるからである。地域では若者が年配に適合しようと歩み寄るのが当たり前だと思っている。ネットでも同じようにしたいという考えがあった。また健全なコミュニティ作りのために、ネット用語や実在しないコミュニティの作成を禁止し、本名と顔写真の記載を徹底した。コメントをする時に顔写真を出させるようにし、よりリアルに近い空間を作った。さらにデザインにおいても、あみっぴいの仕組みを「教える側」の人が、最小限で教えられるものにし、年配の方が分かりやすいような工夫をした。

あみっぴいは「出会い系」ではなく「出会った系」という形を目指している。つまりインターネットで情報を出し合うことで、リアルで出会った時のサポートとなるような形だ。情報共有をするようなサイトは多くあるが、あみっぴいでは「気持ちの共有」を重視している。それがリアルで再会したときに話しの種となり、さらに気持ちの共有を起こすことになる。

最後に一つ言いたいのは、地域 SNS が地域を盛り上げるわけではない、ということである。携帯電話を持つのは、友達がいるからこそ活きるものであり、ただ持っているだけで友達が出来ない。それと同じように、活性化している地域が SNS を使うことが大切である。するとリアルが活性化する。SNS には「発信型」「積極的受信型」「消極的受信型」の3つがあるが、これからは「発信型」「積極的受信型」での書き込み情報を見ている「消極的受信型」の人たちのことを考えた経営を目指していく。



#### 4. 講演 2：地域 SNS の現状と発展の方向性

庄司昌彦氏（国際大学 GLOCOM 主任研究員／地域 SNS 研究会）

地域 SNS を研究し始めて、様々な SNS に登録することにしていた。しかしあみっぴいに登録するには、実際に出会った人でないと参加できないということを知った。そこで実際に「出会う」ために、千葉まで虎岩さんを伺った思い出がある。私は 2006 年から一貫して、国際大学の「地域 SNS 研究会」で地域 SNS を調査・研究してきた。今回の講演では、全国的な地域 SNS の発展をみていきたい。

ごろっとやっちょろ＝交流の場＋広報

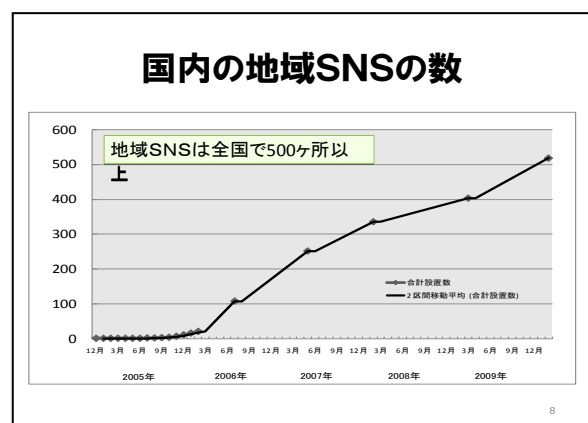


小林隆生氏（熊本県八代市職員）  
Complexity and Social Networks Blogより



- 2004年12月、一般公開
- 地図(GIS)、wiki、火災情報の携帯メール通知
- 目的
  - －「普段から使う」交流の場にお知らせを出す

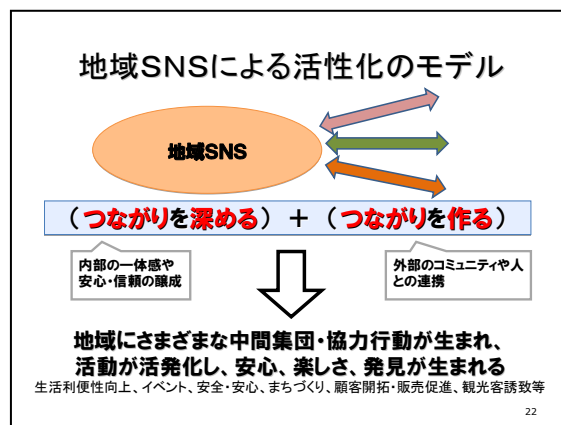
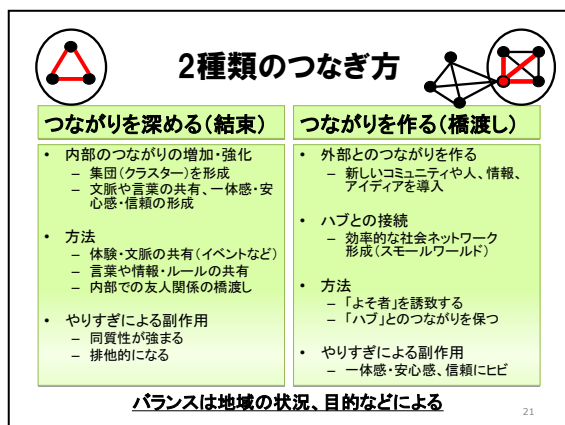
地域SNS誕生から5年



地域 SNS の始まりは「ごろっとやっちょろ」である。「ごろっとやっちょろ」のコンセプトは「交流の場＋広報」であり、一般の人が見ている場所で、市が交流の場を提供するというのは、当時では斬新なアイデアであった。OpenPNE の登場に従って、各地の SNS の誕生が加速化された。現在地域 SNS は立ち枯れの現象も見受けられるが、総数はまだ伸びてはいる。

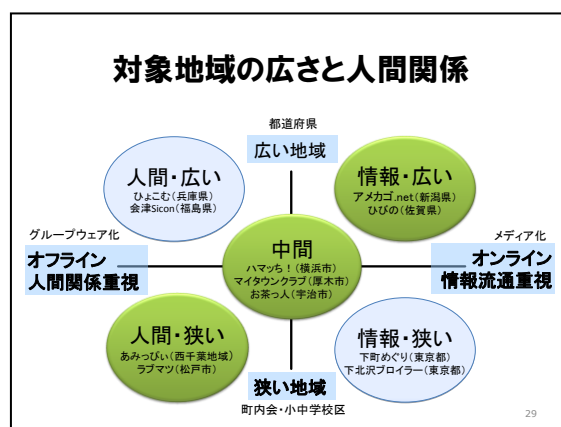
様々なデータを見てみると、地域の繋がりは減少し、人口も減少しているが、逆に高齢化は進んでいるという現状があることが分かる。このような姿では「高齢者たちがさびしく暮らす社会が進む」と思われる。よって人と人を結ぶための、協働・中間集団の活性化が必要である。その際、新しいメディアの利用は、人と人の関係を豊かにできるのだろうか。インターネットはただ眺めているだけではなく、コミュニケーションをしている。そのようなコミュニケーションが人間関係を豊かにする一方で、人間関係の豊かさに格差を起こしているともいえる。

SNS を考える上で、社会関係資本の概念である「結束」と「橋渡し」が大切である。地域 SNS は内部で結束を強めると同時に、外部からの新しい関係を結ぶことができる。その両者のバランスは地域の状況や目的などによって異なると思われる。地域 SNS による活性化のモデルは、「つながりを深める」また「つながりを作る」というものであると考えられる。



地域 SNS は大きく「広さ」と「人間関係」に分類される。ここでは類型 1、類型 3、類型 5 をみていきたい。類型 1 とは「情報重視で広い」である。

例えば、地方の新聞社が運営している地域 SNS などである。この地域 SNS では、新聞とネットが連携しあって情報を流通しながらコミュニケーションをとっている。類型 3 は類型 1 とは逆で「人間関係重視で狭い」である。これはリアルにおける人間関係を加速する利用の仕方をしている。例えば、「あみっぴい」や「らぶまつ」がこれにあたる。類型 5 の「中間」は、情報と交流が中間的な位置にあることを指している。例えば「マイタウン SNS」「ハマっち」がこれに当てはまる。



最後に今後の地域 SNS の問題点として、ネット上での充実感をどのように持続させるのかということが挙げられる。IT で出来ることはほんの一部であり、IT を使って現実の生活をどのように豊かにできるかを考えることが大切であると思う。



## 5. 1-1：地域通貨と地域 SNS から広がった新たなつながりー西千葉の事例から

[パネリスト]

松尾貴臣氏（(株) ころごし音楽工房 代表取締役）

堂本暁子氏（前千葉県知事／西千葉住民）

松山美穂子氏（mihorin 企画）

岡田泰子氏（NPO 法人子ども劇場千葉県センター理事長）

日下裕佳（NPO 法人 TRYWARP／千葉大学）

関本康二（G-CAFE 代表／千葉大学）

アライヒロユキ

西千葉には、地域通貨ピーナッツをはじめ、さまざまな活動があり、それを支えるたくさんの人がいて、お互いに顔が見える人々同士が緩やかに連携・関係することで相乗効果が生みだされている。この分科会では、主に地域 SNS「あみっぴい」が個々の活動に与えた影響について語り合われた。また、「顔が見える＝実名がわかる」人のつながり作りとして地元の千葉大学が進めている取組みも紹介された。

まず mihorin 企画の松山氏からは、あみっぴいに入ったきっかけや、あみっぴいの特徴である世代間の交流への魅力について語られた。松山氏に続き、堂本元知事からは、初めてあみっぴいのオフ会に参加した時の印象と、知事としてあみっぴい上でメンバーと交流した時の思い出について語られた。

次に話題は、あみっぴいが生活に与えた影響に移った。ころごし音楽工房の松尾氏から、あみっぴいを通して、高知県の人々と知り合ったことがきっかけで高知県の観光大使に任命されるまでの経緯が紹介された。



さらにあみっぴいの具体的な利活用について語られた。TRYWARP でパソコン教室の講師をしている

日下氏と G-CAFÉ を運営している関本氏からは、あみっぴいでの繋がりが自身の日常生活に活力を与えていることや、活動の場を広げるきっかけとなっていることが述べられた。

NPO 法人子ども劇場千葉県センタ

ー理事長の岡田氏からは、あみっぴい上での交流が、子育て中の母親の視野を広げる可能性や、地域の活性化に繋がることへの期待が語られた。アライ氏からは、自身が運営している会社の文化活動を通し、あみっぴいが活動の大きな助力となることが紹介された。

特別講演：

実名登録による 人的ネットワークの構築に向けて ―千葉大学校友会 SNS「Curio」の取組み―  
大塚成男氏（千葉大学 教授）

私は実名登録による人的ネットワーク「Curio」の構築に向けて話したい。私は離れ離れになった千葉大生を繋げる方法を考えてきた。千葉大学には同窓会の連合体である千葉大学校友会があるが、個人情報の保護により同窓会名簿の作成が困難となっている。では個人情報を保護しながら、どのようにして結びつきを作っていくのか。その時 SNS に着目した。

SNS には地理的な制約を受けないという、インターネットの利点がある。これまで千葉大学には学部単位などの小さなグループは多く存在した。その一方でグループに入っていない人もいた。Curio ではそれらを統合させようとした。2007 年 1 月に開始した Curio は、現在 2000 人程度が入っている。基本的には大学と Curio は結びついていない。

Curio ではみな実名を義務づけている。その実名登録や変更は事務側で行うことになっており、会員自身は直接操作できないようになっている。結婚しても大学の時の名前を公表させるようにしている。Curio で実名登録が徹底されているのは、それが同窓会名簿の役割があり、実名を出していないと意味をなさないと考えられているためである。

実名を公開する仕組みには、賛否両論があった。実名への反対意見には、悪用される危険性に対する反応があった。また、基本的にインターネットは「匿名である」という思い込みがあった。そのような価値観の違いが、賛否を起こしていた。実名を検討していく中で Curio の制作の趣旨である「同窓会」にたどり着き、実名は同窓会名簿で名前を出すのと同じ感覚であるという結論に達した。

実名が成り立っている背景として、年配には匿名性自体に慣れていない人が多いということも挙げられる。しかし実名を出す以上、個人情報の保護は大切である。その措置として二つ考えられた。一つは、ウェブ上では会員登録はできないようにしていることである。事務が卒業生であることを判断・確認した後に、登録が出来るようになっている。もう一つは、日常的にモニター活動をしていることである。不適切な行為を監視することで、個人情報を保護している。

実名登録が継続できる理由には二つある。一つは、Curio が人的ネットワークの再構築であるということである。「見知らぬ人」との交流を重視していない。つまり実社会での人的交流の延長とみている。もう一つは、Curio が同窓会名簿であり、同窓会を意識してフォーマルなものになっていることである。つまり「遊び」という要素を重視していない。毎日見てもらうようには考えていない。ある意味堅苦しい SNS であるといえる。仮想的関係ではない「他の誰かになれる」などという要素がない。これらによって、実名登録を維持できているといえる。

## 6. 1-2 : 地域 SNS 研究の最前線

[パネリスト]

鳥海不二夫氏（名古屋大学）

吉田倫子氏（富士通総研）

和崎宏氏（兵庫県立大学／ひよこむ）

[コーディネーター]

原田泉氏（国際社会経済研究所）

地域 SNS については、さまざまな分野から研究が行われているが、それらを一度に聞く機会は少ない。このセッションでは、三つの異なる分野から最新の研究成果の紹介を通して、地域 SNS が多面的に検討された。

名古屋大学の鳥海不二夫氏から「地域SNSにおける友人関係とその変化」と題し、SNSを人間関係によって分類した4類型についての説明と「アクティブ遷移図」を用いたSNSの盛り上がりの分析結果についての報告が行われた。

「SNSの人間関係の分類」として「あみっぴい」「モリオネット」「下北沢ブロイラー」「ラブマツ」を例に挙げ、一般型、スター型、凝集型、分散型の4つに分類し、それぞれの類型についての特徴が説明された。またSNSの盛り上がりを可視化するために「アクティブ遷移図」を用いて、利用者がどのくらいの頻度でアクティブな活動をしているかを分析することで、SNSの運営に役立てられるのではないかと提案がされた。

富士通総研の吉田倫子氏からは「海外の地域SNSの動向」と題し、海外と日本における地域SNSの差異について報告が行われた。海外の地域SNS運営者へのインタビュー調査から得られたデータを基に、事例を挙げながら日本の地域SNSとの違いが説明された。海外の事例に関して、参加者の多くからコメントがあった。

最後に、「ひよこむ」（兵庫県）を運営する和崎宏氏から「地域SNSによる地域情報化に関する研究」と題して、氏が先日執筆した地域SNSに関する博士論文の内容を踏まえ、地域情報化における地域SNSの役割について説明がされた。

## 7. 2-1：地域 SNS の事業継承を考える－横浜市から民間への引継ぎ事例から

### [パネリスト]

杉浦裕樹氏（NPO 法人横浜コミュニティデザインラボ）

宮島真希子氏（神奈川新聞）

肥田野正輝氏（インフォ・ラウンジ LLC）

和崎宏氏（兵庫県立大学／ひょこむ）

坪田哲司氏

### [司会]

坪田知己氏（慶應義塾大学大学院 特別研究教授）

行政の事業として、あるいは行政の助成金を受けて立ちあがった地域 SNS が、目標年限を終了して「自立」を試みる事例が増えてきている。この分科会では、横浜市の関連事業であった地域 SNS「ハマっち！」が、新たな事業体を形成して事業継承をすることになった事例を取り上げ、地域 SNS の持続的な運営や事業継承のあり方が検討された。

まず NPO 法人横浜コミュニティデザインラボの杉浦氏は、ハマっち設立の当時の様子について説明した。それによると、ハマッチは横浜の 150 周年記念行事の一環として設立され、それまでに有志で研究されていた地域 SNS の研究成果が活かされているという。また現在のハマッチのシステムである OpenSNP が、利用者側で修正し、改良していけるシステムであると判断されたため、採用された経緯について述べた。

次に、慶應義塾大学大学院の特別研究教授である坪田氏の司会のもと、ハマッチに対するパネリストの想いや、それぞれのパネリストがハマッチに関わりをもつようになるまでの経緯について語られた。

坪田知己氏は、地域に接しつつもバーチャルの形で、地域に新しい情報ハブを立ち上げたいという想いがあり、それがハマッチへの参加に結びついたという。杉浦氏はこれまで舞台監督、市民活動の現場作り、ヨコハマ経済新聞での活動の経験をしてきた。それらの経験が、地域 SNS で活かされると感じたことが、ハマッチに関わるきっかけとなったことを述べた。神奈川新聞の宮島氏は、行政に頼るのではなく、自分達の手で地域を変えていくことに関心を持つ中で、ハマッチにたどり着いた経緯を語った。エンジニアであるインフォ・ラウンジ LLC の肥田野氏は、「人のつながり」に対して、技術をどのように活かすのかを考えている時に、ハマッチと出会った経緯を述べた。また今後は新たな事業体である「シンフォシティ」の代表として、ハマッチの事業を引き継ぐと共に、CGM を初めとした様々なメディアを組み合わせを用いて、必要な場所に必要な情報を送れる技術の展開を語った。坪田哲司氏は、子供に誇りを持たせる地域作りを考えており、市民が地域に対して主体的に関わって運営していける方向性を模索してきた。シンフォシティでは、新しい公共経営の姿を追求しながら、地域の発展についていくこと



を語った。兵庫県立大学／ひよこむの和崎氏は、ハマっちの役割として、地域の将来を開き人材を掘り起こすと同時に、人材を結びつけていく使命があるとし、その発展を念願した。

最後は、継続的な運営の方法について議論された。杉浦氏は、SNS は決して儲かる話しではないとしながらも、運営に必要な資金の徴収方法として、クリック資金のシステムの確立や、利用者に対する広告サービス、新しい講座の提供、編集・統括された情報を送るメディアとして事業展開の可能性を説明した。引き続いて、肥田野氏は寄付システムについて言及した。そこではいかにして小額を寄付してもらうかが重要になると考えられ、その一つのソリューションとして、パスモ・スイカのようなカードで金を寄付してもらうシステムについて報告した。

最後に司会の坪田氏は、地域 SNS の第一期は終了したとし、これまでの地域 SNS を開拓していきながら、さらに前向きに進めるようシステムを開発していくことが述べられた。

## 8. 2-2：地域における新しいツールとビジネスの関係—Twitter、動画中継などをどう使うか

[パネリスト]

手嶋守氏（手嶋屋 代表取締役）

牛島清豪氏（佐賀新聞社 デジタル戦略チーム）

細谷拓真氏（Yokotter 代表）

[コーディネーター]

庄司昌彦氏（国際大学GLOCOM 主任研究員／地域SNS研究会）

地域情報化において新しいデジタルツールをどうビジネスに結びつけていくかという主旨の基、プレゼンテーションとコーディネーターを加えたパネルディスカッションが行われた。

Twitter や動画中継（ustream やニコニコ生放送、stickam など）などの新しいツールの活用法と地域 SNS の組み合わせのあり方などについて具体的な事例や技術的な視点から、また地域活性化の重要な要素であるビジネスの観点から議論がされた。

株式会社手嶋屋の手嶋守氏から、自身が開発を行っている OpenPNE という SNS の構築システムについての説明と OpenPNE の今後について展望が語られた。SNS の収益モデルを強化するために、個人決済の仕組みを設けることで、その運営を寄付によって賄うという斬新な切り口で今後の地域 SNS のあり方について説明がされた。

続いて、佐賀新聞社デジタル戦略チームの牛島清豪氏から佐賀新聞社におけるウェブ展開についての説明が行われた。全国に 500 以上ある地域 SNS の中でも佐賀新聞社が運営する「ひびの」は、その参加者が 1 万人を超え、日本最大の地域 SNS である。また、既存メディアが運営する数少ない地域 SNS として、SNS の運営と新聞ビジネスとの関係性が非常に興味深い取り組みであると言える。

既存の新聞ビジネスにおける販売収入と広告収入に依らない、新たな収益モデルとして地域 SNS をどう活用していくのかという難しい問題に対して、これまでの取り組んできた事例を踏まえた報告がされた。最後に、細谷拓真氏から Twitter を活用した地域の活性化に関する事例である「Yokotter」が紹介された。地方自治体や地方の商店街で Twitter の活用例が数多く見られるようになってきたが、その先駆的な存在である「Yokotter」は名前の通り（よこったー）秋田県横手町を舞台に活動がされている。利用者を急激に伸ばしている Twitter と地域 SNS の共存について意見交換も行われた。

## 9. メインセッション：地域を元気にする ICT の使い方

### [パネリスト]

谷脇康彦氏（総務省 情報通信国際戦略局情報通信政策課長）

藤倉潤一郎氏（地域協働推進機構 代表／地域協働ポータルサイト）

小路隆行氏（神奈川県厚木市 情報政策課）

### [司会]

庄司昌彦氏（国際大学 GLOCOM 主任研究員／地域 SNS 研究会）

このセッションでは、「地域社会を元気にする」等の目的に対して、地域 SNS などの ICT（情報通信技術）が得意なところはそれを最大限活用し、苦手なところは別なもので補うなどしてうまく活用していかうという考え方に立ち、具体的な取り組みと俯瞰した視点の双方による視点から意見が交わされた。

初めに司会の庄司氏は、地域 SNS の目的は SNS の活性化ではなく、あくまでも「地域の活性化」にあるとし、地域を元気にする ICT 利用を考えていきたいと述べた。

続いて総務省の情報通信国際戦略局情報通信政策課長である谷脇氏より、日本のブロードバンド利用について説明がされた。それによると、今日情報設備が整い始めているにも関わらず、その利活用の面では遅れているという現状が示された。また政府も地域主権のあり方を模索しており、情報通信技術の活用性が期待され、ICT を利用した人と人とのネットワークを目標にするべきであることが述べられた。

このセッションでは地域で ICT が活用されている具体的な取り組みとして、マイタウンクラブと地域協働ポータルサイトについて紹介があった。

まず神奈川県厚木市の情報政策課である小路氏から、マイタウンクラブについて、その設立の歴史と現在の状況について説明があった。そこではマイタウンクラブで行われているサービスや、高齢者や PC が苦手な人をサポートするマイタウンサポーターズクラブの取り組みが紹介され、小冊子等を通して SNS の利用価値について理解してもらい、ゆっくりだが着実にコミュニティが広がっている様子が述べられた。

次に地域協働推進機構の代表で地域協働ポータルサイトを運営している藤倉氏より、ポータルサイトの説明と運営状況について紹介があった。氏はまず地域 SNS を作ろうとしたのが最初ではなく、街づくりの基盤を作りたいという願望が最初にあったことを述べた。そのために行政、企業、NPO が連携した形を理想とし、地域協働のプラットフォームの環境作りとしてポータルサイト設立の目的があることを説明した。地域協働ポータルサイトの特徴としては、コミュニケーション型よりもテーマ型に絞っていることや、交通系 IC カードとの連携、寄付に応じた「まちづくりポイント」の寄付、施設予約公共サービスとの連携などが挙げられ、地域活動に関わった内容は可視化できるようにして、利用者の立ち位置を明確にしていることが述べられた。



谷脇氏は、これらの取り組みに対しリアルな関係に繋がっているところが重要であることを述べ、リアルの繋がり力をつなげている所が面白いとした。またこのような取り組みには行政と NPO の連携が大事であり、これからもその連携について試行錯誤したいとの感想が述べられた。

この後、パネリストの間で質疑が交わされた。谷垣氏の携帯電話との関連についての質問に対して、小路氏はほとんどのサービスが携帯と連動しているが、高齢者が多く、その利用が進んでいない現状を明らかにした。また司会の庄司氏から、サービスがシニアを意識しすぎているのではないかと質問があった。これについて小路氏は、行政サービスは様々な年齢層を対象としており、ネット利用を後押しするために高齢者に対応しているのであり、若者も積極的にマイタウンクラブを利用している例を挙げた。寄付を引き出すコツについての質問に関して、藤倉氏は非常に難しいが、地域の現状や問題を知ってもらうことで寄付を募ることが大切であり、寄付を「社会的投資」という認識に変える働きが大事であることを述べた。最後にパネリストからそれぞれセッションの感想が述べられた。

## 10. 閉会式

第6回の開催地西千葉から、次回第7回の開催地、静岡県掛川市への「地域 SNS 全国フォーラムの旗」のリレーが行われた。

挨拶：海保眞氏（地域通貨「ピーナツクラブ西千葉」世話役／（有）アミーゴジャパン代表取締役）

海保氏は、地域活性化における対面でのコミュニケーションの大切さを強調した。特に、互いに顔を合わせ、目を見て挨拶をすることが大切であると説いた。そして、西千葉で流通している地域通貨「ピーナツ」では通貨を使用した際に「アミーゴ」という合言葉を唱えながら握手をするという取組みを紹介し、最後には会場の参加者全員で握手を交わし記念撮影を行って終了した。参加人数は計 240 名であった（内スタッフ 53 名）。



## 11. パネル・ポスター展示：

けやき会館 2 階ホール・会議室では、各地の地域 SNS がパネル・ポスター展示や資料の配布を行った。運営者と参加者が直接コミュニケーションをする企画も行った。

参加団体：

- ・あみっぴい（西千葉）
- ・ラブマツ（千葉・松戸）
- ・下北沢ブロイラーSNS（東京・下北沢）
- ・e-じゃん掛川（静岡・掛川）
- ・かちねっと（東京・葛飾）
- ・地域 SNS 研究会（国際大学 GLOCOM）
- ・マイタウンクラブ あつぎ地域 SNS（神奈川・厚木）
- ・つつじネット（福岡・久留米）
- ・世界の千葉（千葉）
- ・みんなの船橋（千葉・船橋）



## 12. 集計結果（最もよく使っている地域 SNS）

参加申込時に行ったアンケート「最もよく使っている地域 SNS は？」という問いに関する集計結果である。174 名が申込みを行い、合計 181 の回答を得られた。（複数回答をそれぞれカウント）うち 123 人が最もよく使っている地域 SNS を回答し、計 39 の地域 SNS が挙げられた。今回のフォーラムの開催地が西千葉ということもあり、西千葉の「あみっぴい」が最多であった。続いて東京都葛飾区の「かちねっと」、神奈川県横浜市の「ハマっち！」、兵庫県の「ひよこむ」が並んだ。

|                |    |
|----------------|----|
| あみっぴい          | 47 |
| かちねっと          | 11 |
| ハマっち！          | 10 |
| ひよこむ           | 9  |
| e-じゃん掛川        | 3  |
| Mixi           | 3  |
| あんみつ           | 3  |
| おおさか本音っと       | 3  |
| 下北沢ブロイラーSNS    | 3  |
| Curio          | 2  |
| Lococom        | 2  |
| NikiNiki       | 2  |
| つつじネット         | 2  |
| ひびの            | 2  |
| ラブマツ           | 2  |
| 雪国観光圏          | 2  |
| 地域 SNS 研究会 SNS | 2  |
| e-とちぎどっとこむ     | 1  |
| F レックス         | 1  |
| twitter        | 1  |
| VARRY          | 1  |
| Web.CoM.       | 1  |
| あつぎ地域 SNS      | 1  |
| うるおい新潟 SNS     | 1  |
| オタクール          | 1  |
| おのみっち          | 1  |
| 茶っ人            | 1  |



|                   |     |
|-------------------|-----|
| コミュニティ高知 SNS      | 1   |
| じゃんだらリング          | 1   |
| すもーるすてっぷ nextstep | 1   |
| ドコイコ              | 1   |
| クスタ               | 1   |
| みんなの船橋            | 1   |
| 下町めぐり.jp          | 1   |
| 市川市               | 1   |
| 精神障害者の地域生活推       |     |
| 進ネットワーク・ちば        | 1   |
| 柏SNS              | 1   |
| 房州わんだあらんど         | 1   |
| なし                | 51  |
| <hr/>             |     |
| 合計回答数             | 181 |
| (複数回答も個別に計算)      |     |